



「タコはたつぽで捕るんじやら。そんなたつぽは海ん中に入ればい落ちとる。あんだ達にはやられんけど、昔のお殿様が作ったたもんも落ちとるぞ。」とつづいて、漁師さんは、小舟をたつぽを大事そうに机の上に置いた。

▼漁師さんに中津の海の話聞かせてもらっているとき、小耳に挟んだ話だった。さかのぼること江戸時代、細川のお殿様が、領地である中津の民に「こんな作ってタコ捕ったらええよ」とたつぽを作ったと聞いた。俗に言う「三音公(細川忠興)のたつぽ」である。たつぽに三という文字が彫られている。

(欲しいなー欲しいなーソレ。とA隊員が懇願したが、しつかりと奥にしまわれてしまった。残念！)

▼お殿様が作ったたつぽといえは文化財並(勝手にそう思う)にすむ。そのお宝が、海の中に落ちていた。キヤ(キ) 昔の中津人がタコを捕っていたたつぽが海の中にそのままだなんて(キヤキヤ)!! 中津の海の豊かさの一端を見せつけられた。スゴイ! スゴイ! スゴイ!

長い長い歴史を背負ったたつぽが海底に音もなく沈んでいるという光景は神秘的で、心の奥のなにかを揺さぶられる思いにかられた。いつもみんな遊んでいる海にひっそりと眠っているたつぽは、どんな海の記憶を蓄えてきたのだろう。これは、私たちがまだ知らない「中津の海」の招待状だったにちがいない。

▼話は変わって、中津市郊外には、渡来人が持ち込んだ技術によって瓦を焼いた場所がたくさんあるが、タコを捕るためのつぽまで焼いていたことを知ったのは、ごく最近。当時の海岸線に沿って、一三〇〇年ほど前の遺跡からたつぽを焼いた痕跡が見つかるといふ。中津市立民俗資料館には現場を剥ぎ取った展示があるが、当時の人々のゆったりとした生活様式が再現されているようだった。当時の中津人の指紋がはっきりと残っているつぽもあり、子どもたちに見て触れてもらいたいと思った。

▼中津ではイイダコは春の食材。M隊員のお母様は醤油で辛く煮たイイダコが好物の夫のために(愛だねえ)、毎年時期になると生きているのに、かわいそう! などと言いつつ、ガスの火で自分の手をあぶってはタコの鍋の火加減をみていたという。イイダコの「イイ」は本当に米飯だと思いいこんでいた母君は「これを食べれば栄養満点だからご飯は食べなくてもイイね」とすました顔で言ったそう。茹でたてイイダコを頭からガブリ! ああ、かわいそう。でも美味しい。豊かな海を持つ者の特権だ。

▼日本人は魚食の民といわれる。中津は森と川、そして広大な干潟を持つ海に恵まれた地域であり、古く縄文時代から人々は海の恩恵にあずかってくらしてきた。これは陸の「里山」に匹敵する「里海」だ。深い森が一本の川を通じて、この干潟と海を作ってきた歴史が、そこに住む人間の身体や精神性をも育んできたのかもしれない。



- 2005. 4. 10 作っちゃん・食べちゃん 第1回「たこつぽを作ろう」
- 2005. 4. 11 中津港にて漂着ごみの緑化プラント見学
- 2005. 4. 19 仲良し広場合同レンゲ畑遠足 お手伝い(如水保育園)
- 2005. 4. 21 山国川学習館図書管理打ち合せ
- 2005. 4. 23 野焼き準備
- 2005. 4. 24 作っちゃん・食べちゃん 第2回「たこつぽを野焼きしよう」
- 2005. 4. 27 第5回大分県新長期総合計画 策定県会議出席
- 2005. 5. 3 干潟の日・中津干潟観察会 & 大新田ビーチクリーンミニ
- 2005. 5. 5 作っちゃん・食べちゃん 第3回「たこつぽ漁に挑戦だ」
- 2005. 5. 8 舞手川河口測量調査
- 2005. 5. 12 如水歴史の会にて中津の海の話について説明(講師:村上久和さん)
- 2005. 5. 12 国土交通省大新田視察同行
- 2005. 5. 13 舞手川護岸工事状況見学
- 2005. 5. 21 里浜づくり発表会参加
- 2005. 5. 24 四日市漁協にカブトガニ引取
- 2005. 5. 31 第6回大分県新長期総合計画 策定県会議出席
- 2005. 6. 4 漂着物学習会山国川学習館にて 講師: J.E.A.N小島あずささん
- 2005. 5. 5 第1回大新田ビーチクリーン & 漂着物調査 瀬戸内海の路ネットワーク参加行事
- 2005. 6. 7 鶴居小学校4年生干潟観察会
- 2005. 6. 9 九州農政局たこつぽ行事取材
- 2005. 6. 15 小楠小学校4年生海の学習講師 山国川学習館運営委員会
- 2005. 6. 16 豊田公民館女性学級講師 O.B.Sラジオ出演
- 2005. 6. 18 カブトガニ調査
- 2005. 6. 23 ごみゼロ探偵団説明会(県庁) 地方港湾審議会出席
- 2005. 6. 24 中津土木事務所にて打ち合せ
- 2005. 6. 28 中津土木事務所にて打ち合せ
- 2005. 6. 29 輝く地域創出事業(中津下毛地方振興局)プレゼンテーション

2005年度の活動は「WWF J自然保護助成」よりたこつぽ漁行事は「子ども夢基金」より一部助成を受けています。

■大新田で拾って丸二年、けがも病気も縄張り争いにも負けず育ったネコ、りりは元気です。いなくなったら...とちよつと想像して涙する私です。(あ)

■六月の湯水でこりや大変!とこつぽり雨乞ひした私。困ったぞ。今度は豪雨だ。ひよつとすると才能有り? (う)

伝言板

中津の海と人の昔を語ろう会

しばらくお休みしていた「語ろう会」を再会します。中津の人々が脈々と築いてきた海と人の関わりや自然観を知ること、伝えること、そして記録に残すことを目標に、楽しいひとときを過ごしたいと思います。

第8回 7月25日(月) 午後7時30分~9時30分
場所: 秋月寺(大新田白髭神社筋向い)
ゲスト: 秋月寺住職 原田一誠さん
※場所がわからないときは安倍(090-1199-6190) 足利(090-9564-7443)まで

夏休みだよ! 全員集合!!

毎年恒例 「干潟観察会」 「アカテガニ産卵観察会」

今年もやるよ!! 来てねー!!

山国川学習館で 「ごみゼロ探偵団」 「カブトガニ展」 も企画中!

すべての詳細は同封チラシにて

私たちの活動が表彰されました●これからも楽しい活動を続けます 「海の日」 功労者として国土交通省さんより表彰されました。 「ふるさとづくり賞」 (財団法人あしたの日本を創る協会) 大分県内選考で優秀賞をいただきました。

次回大新田ビーチクリーン&漂着物調査は 9月18日(日) 11:00~12:00です。お忘れなく!!

★毎月11日はジャスコでお買い物★イオン三光SCイエローレシートキャンペーン★ 毎月11日にお買い物をした黄色いレシートを食品レジ前の「水辺に遊ぶ会」BOXに入れていただくと、金額の合計の1%が水辺に遊ぶ会の活動資金として寄付されます。

ホームページ営業中! 遊びに来てね!!

<http://www.max.hi-ho.ne.jp/y-ashikaga/>

水辺に遊ぶ会 MUSEUM

水辺に遊ぶ会ミュージアムは「建物のない博物館です」

<http://www.geocities.jp/kabunyun/index.html>

メールはこちらへ→mizube1999@yahoo.co.jp

「1300年前の中津人が作ったたこつぼは、素朴でかわいい印象だった。」

たこつぼイベント一日目の午前中、中津歴史民俗資料館でみんなの手のひらに乗せてもらったんだか芸術がバクハツしている「縄文式土器」とか繊細で美しい「弥生式土器」を想像すると、ずいぶんかけ離れた造形だぞ。当時の弥生式土器は、土器づくりの専門家集団がいて、その人たちが作ったのだそう。でも、我々がたこつぼは、農作業の出来ない冬の間とか、母ちゃんが父ちゃんが海に出かけている間とか、それこそ普通の中津人がヒマを見つけて作ったものだ。だから大きさも形もそれぞれ。中には指の形がしっかり残っているものもある。焼き方も、地面に掘った浅い穴の上に丸太を置き、つぼを並べ、落ち葉やワラをかけて土で覆い、蒸し焼きにするという素朴なもの。割れたものも多かったらしい。割れて使えないうつぼを、そのままにしておいたのが、やがて「たこつぼ焼成遺跡」となって私たちの前に現れた訳である。



古代中津人に出来たこと、私たちに出来ないはずはない！ならばやってみようじゃないか！ 作っちゃおう！ 食べちゃおう！

中津の海と人の間に広がる歴史的背景を垣間見た私たちが、たこつぼ漁をやってみようと思っただけで、こんな単純な理由からだったのだ。

前代未聞！水辺に遊ぶ会 無責任思いつきを実現したゾ企画 「作っちゃおう・食べちゃおう～古代人になって中津干潟でたこつぼ漁に挑戦だ～」顛末記

理にかなっていったたこつぼ漁。イダコはその名の通りイイが詰まっている春が一番美味。タコが卵を産もうと、岩場などの狭い場所に入り込む習慣を上手く利用したのが「たこつぼ漁」なのだ。いい場所を見つけたぜ！とつぼに入れたタコちゃん、哀れ今晚のこちそうとなってしまうのだ。当時の人々は、田んぼの仕事が始まる前のジャストなタイミングでたこつぼ漁を行っていたらしい。捕りすぎることはない、自然に優しいのどかな漁により、資源の管理もできていたに違いないのだ。

漁師さんもビックリ！ タコちゃんも意外な好み。いざ出陣！と船に乗り込んだのは、五月五日のこの日。総勢八〇名の大船団は、数日前に海に沈めておいたたこつぼを引き上げに出かけたのである。大漁旗？付きのウキを目印にスルスルとロープをたぐると、おお、やった！タコが入ったつぼが次々とあがってくるではないですか！（捕れなかつたらどうしようと思っていた事務局スタッフここで安心）エキサイティングなたこつぼ漁は約一時間、陸地に戻ったたこつぼ部隊は、漁師さんたちと一緒に中津の幸と漁師料理の「バクダンおにぎり」と、茹でタコ片手に交流会へと突入したのであった。

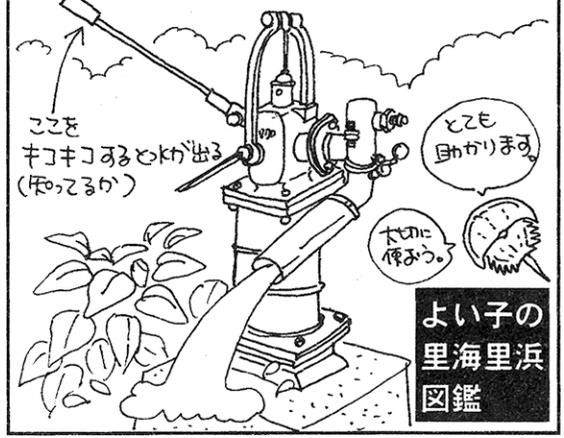


感謝の言葉はつきません。たこつぼ漁には多くの方が協力下さいました。つぼ作りの指導をしてくださった有馬さん、企画から全てを指導してくださったつぼが上手く焼けるか、タコ捕れるか、心配で眠れぬ夜を過ごした村上さん、遺跡の説明をしてくださった高崎さん、漁をバックアップしてくださった中津下毛振興局の水産課さん、ライフジヤケットを手配してくださった山国川河川事務所さん、中津土木事務所さん、ありがとうございます。そして全面的に協力してくださった中津漁協さんと、漁師の中上さん、田中さん、広津さん、掛野さん、増田さん、若い田中さん、もつと若い田中さんに感謝感謝です。実はみなさん、タコが捕れるか心配で何度も海に見に行ってくれたそうです。焼が甘いつぼが溶けた時は冷や汗かかれました。たこつぼにタコこっそり入れたいちゃろうか。「タコが逃げんよ」う足をヒモでくくりつけとけや」なんてジョークも。今度の冬は海音漁に挑戦！といううれしい話も決まりました。水辺に遊ぶ会頑張ります！



水辺に遊ぶ会 ミュージアム展示 No. 4 手押しポンプ

中津干潟絶滅危惧指定Ⅱ類。水道の普及と共に近年激減の傾向にある。中高年層には、ぜんぜん珍しくないが、最近の子どもの中には「こたりのトトロ」の中しか馴染みがない。本年三月、中津市のご厚情により大新田海岸に復活した。使ったことのないよい子は観察会へ来られたし。ただし、貯水量は多くないので、皆で分かち合うこと。



MIZUBE ライブラリー

月刊たくさんのふしぎ 7月号

ウナギのふるさとをさがして

発行：福音館 定価：700円

★学術研究船白鳳丸でのウナギの調査のお話です。

清崎滋・里海里浜を語る 私と海 (その二)

例えば「潮溜り」の中央の深みに出る。「潮溜り」とは塩田に必要な海水を流入させる為、海と直結させた潮の取り入れ口から出入りする海水を調整役として造られた池(約二反ぐらゐの面積)又は上手に投網を投げる。ゆつくり引き上げる、「チヌ」「セイゴ」「イナ」や「ボラ」が多くかかっている。私は網から外された魚を籠に入れ、父と共に自宅に帰ることが習慣になっていた。その「潮溜り」の「だぶも昭和30年頃廃田」になってから殆ど泥で埋まり浅くなって小魚が棲むのみの水溜まりになっている。

◆豊前海(田尻・大新田)にいた主な魚、貝、海藻など

魚類▼あなご・あじ・あみ・いわし・いか・うなぎ・えい・おこせ・かぶとがに・かれい・きびな・きすく・くるまえばい・こち・かたくちいわし・このしろ・小エビ・小鱈・さより・せいご・たい。たこだいがんじ・ちびら・はせとび・はせ・ひら・チヌ・めい・ち・ほらほらも。わたりかに・いしかに・しゃこ・貝類▼あさり・赤貝・かき・しおふき・つべたにし・ホタテ貝・にし・蛤・まで貝

海藻▼めり・おこ・あおのり・あわさ・海どめ その他▼岩虫・虫・こかい・しおまねき (次号へつづく)